

八丈島における自動運転サービス導入に向けた社会受容性向上の取組 PA02

ーバス利用者と道路利用者の比較に着目してー

○安藤 慎悟(パシフィックコンサルタンツ) 竹之内 篤(パシフィックコンサルタンツ) 小島 朋己(東京都 都市整備局)

※現：首都高速道路株式会社

01. 背景と目的

離島：人口減少・少子高齢化
バスのドライバー不足が顕著

自動運転バスの導入に期待
しかし、導入にはいくつものハードルが...
(技術レベル、社会受容性...)

社会受容性の向上
✓ バス利用者：安心して乗車してもらう
✓ 道路利用者：自動運転に不満が生じないように



目的 東京都の島しょ地域である八丈島を対象に、自動運転バス走行の実験を行い、**自動運転バス利用者**に加えて、**道路利用者**に対してアンケートを行い、双方の意見を踏まえた**社会受容性向上策**を提案する。

02. プロジェクト内容

< 走行実験概要 >

- ✓ 計10日間走行
- ✓ 日野ポンチョを使用
- ✓ 自動運転レベル2
- ✓ 予約不要、運賃無償
- ✓ 延べ476人が乗車
- ✓ 乗車率40.7% (定員13名)



- ◆ 島内の4500世帯へチラシを全戸配布!
- ◆ 観光客に向けて、WebやSNSを活用して周知

< 自動運転バス利用者アンケート：概要 >

実施場所：自動運転バス車内
調査目的：主に乗車前後の印象変化や支払い意志額等を把握

- ◆ バスの停車時間を設け、アンケート回答率を向上へ



< 道路利用者アンケート：概要 >

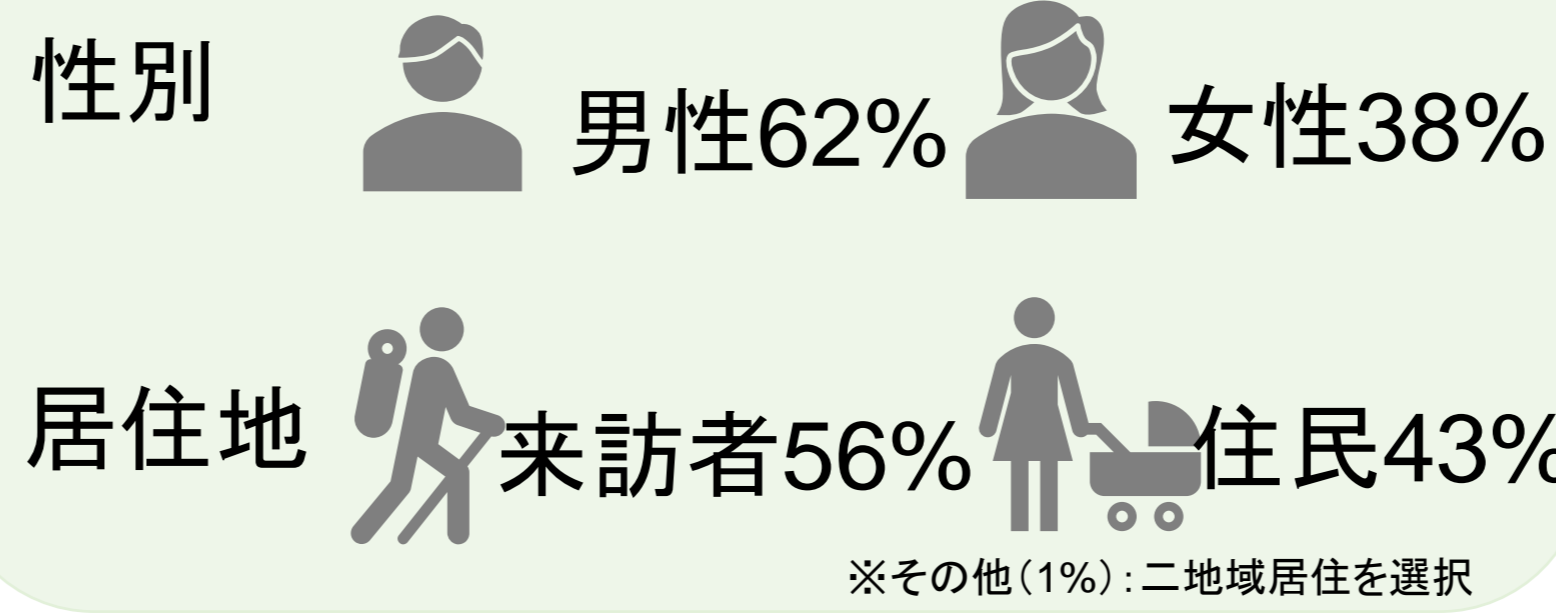
実施場所：八丈島空港・底土港(来訪者)、スーパー(住民)
調査目的：主に潜在需要や他交通主体への影響等を把握

- ◆ バスを利用していないため、今回の実験概要等、設定について丁寧に説明を実施 (ヒアリング形式)
- ◆ 空港や港では、飛行機やフェリーの待ち時間の方へスーパーでは昼食・夕食の時間帯等を避ける等、時間に余裕のある方に対して実施 ⇒ 回答の承諾率UP

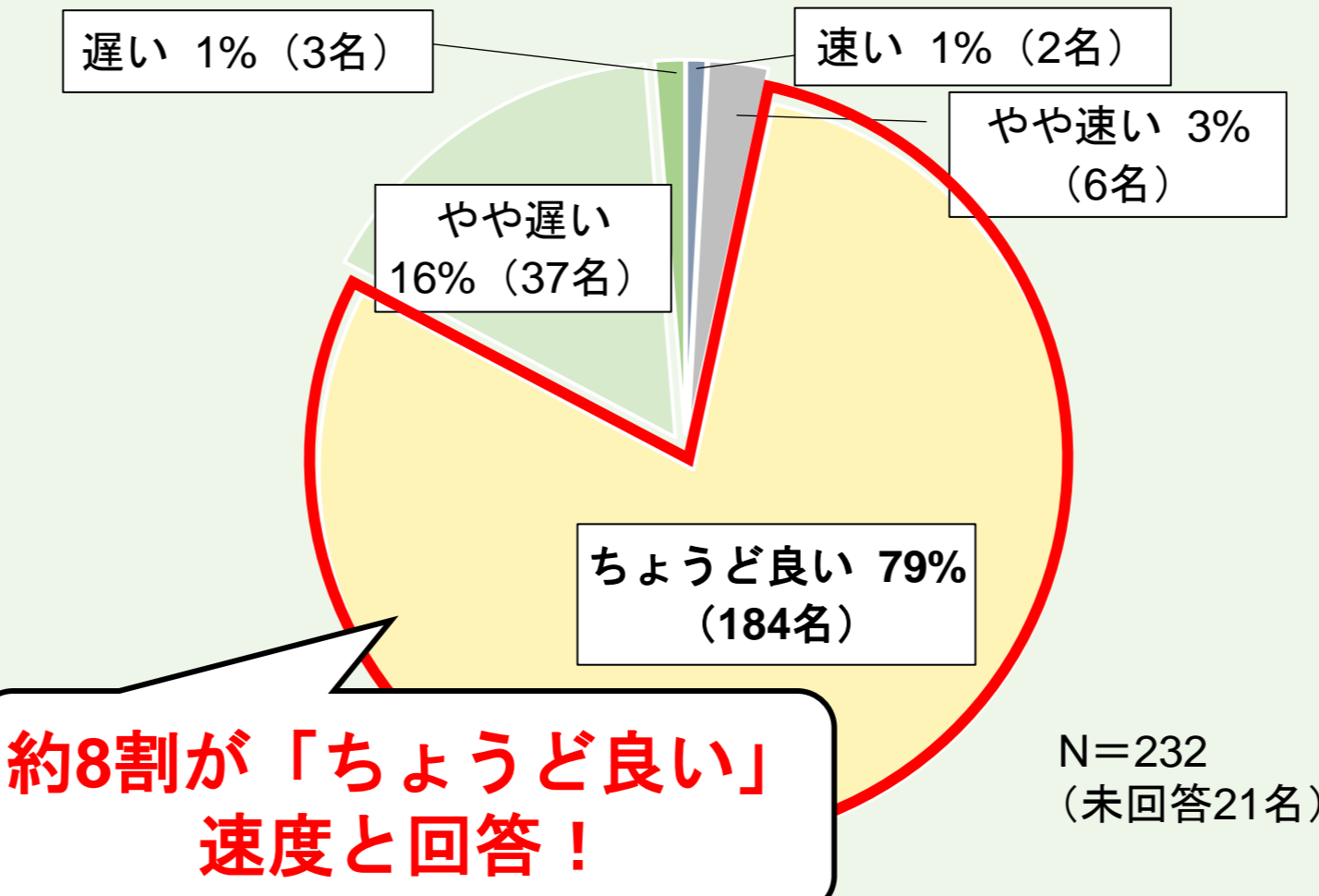
03. 効果：アンケート結果

自動運転バス利用者アンケート

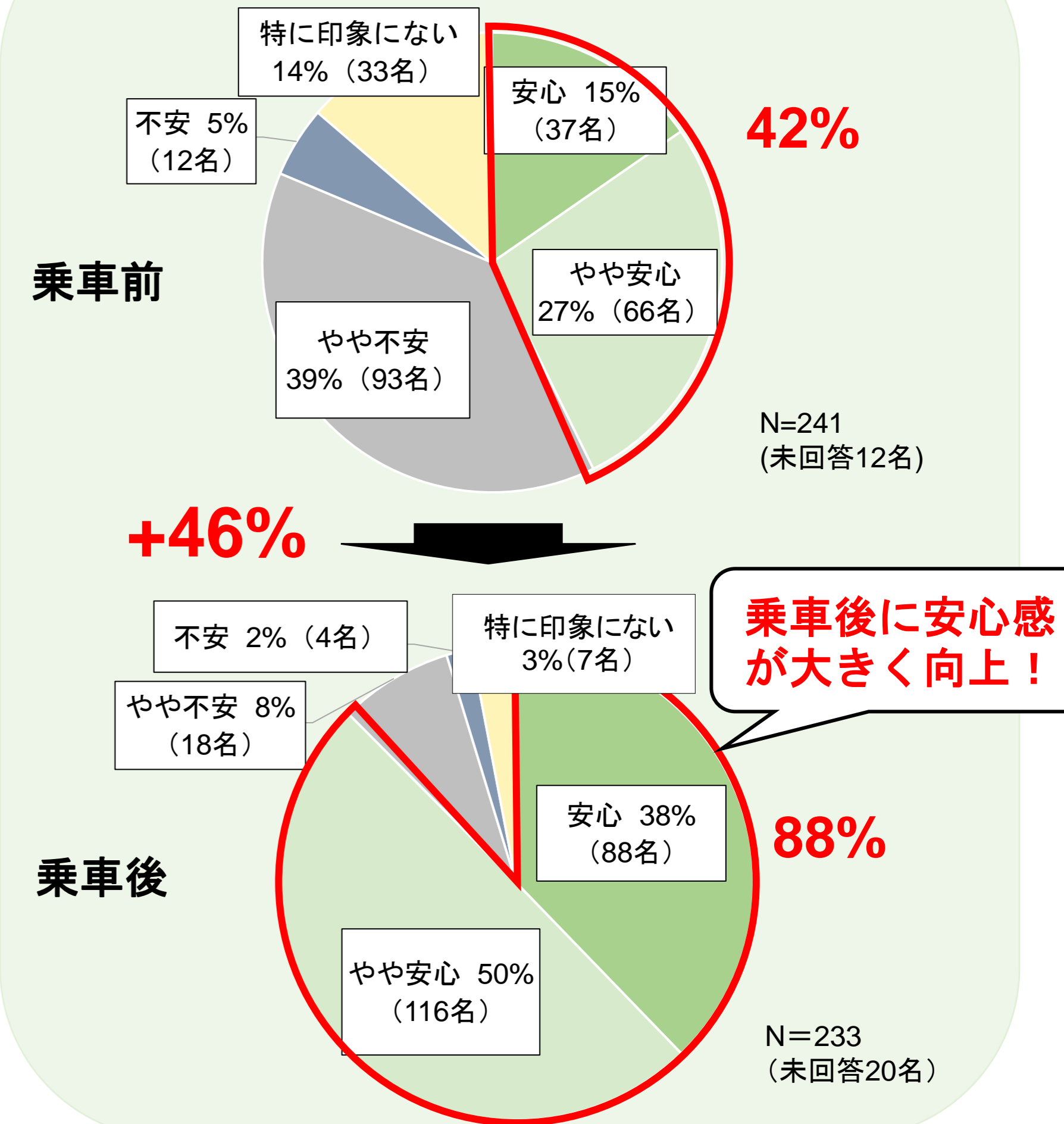
回答者属性(N=253)



走行速度について



自動運転バスに対する印象の変化



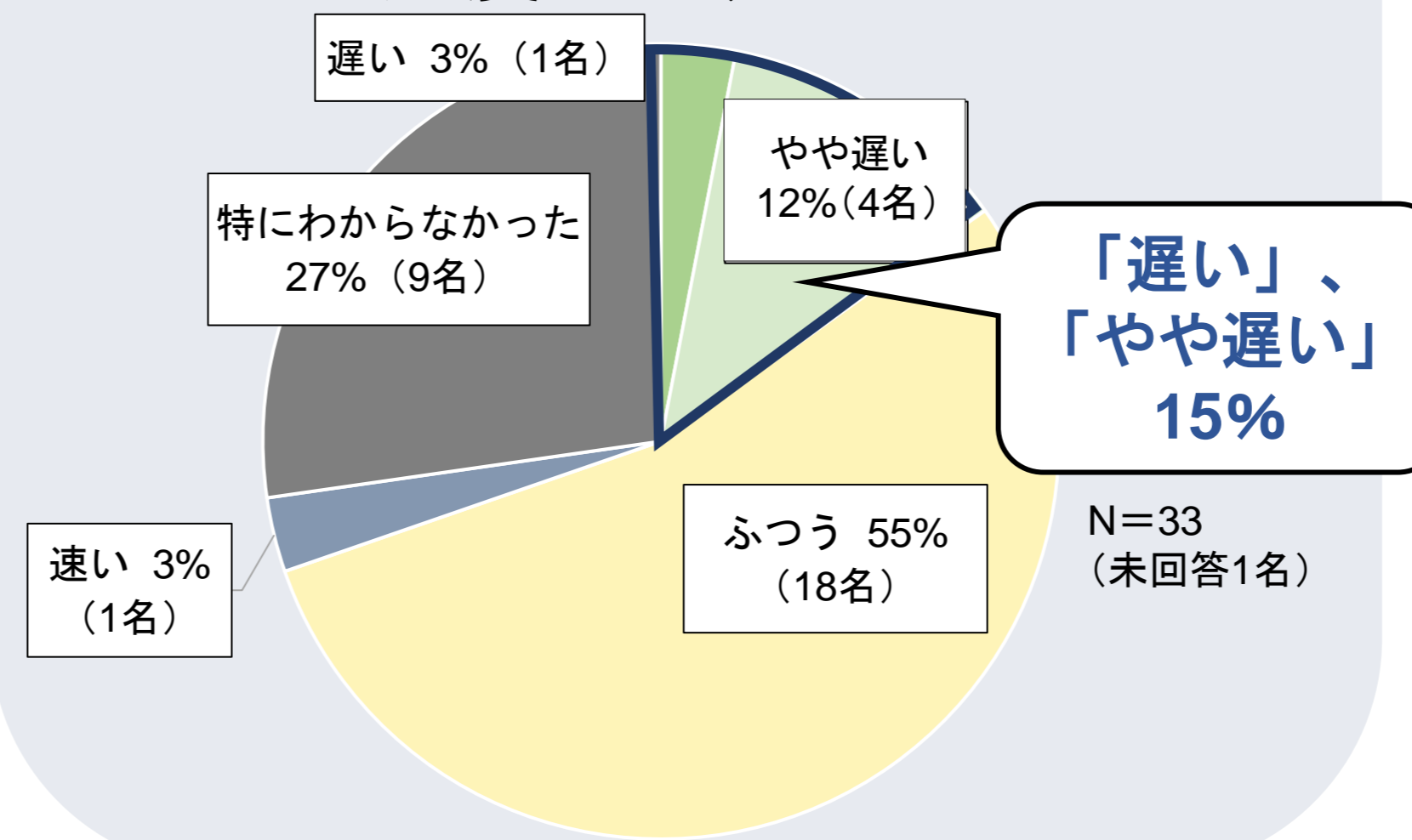
💡 試乗によって、自動運転技術に対する不安が解消!

道路利用者アンケート

来訪者：回答者属性(N=138)

性別 男性62% 女性38%

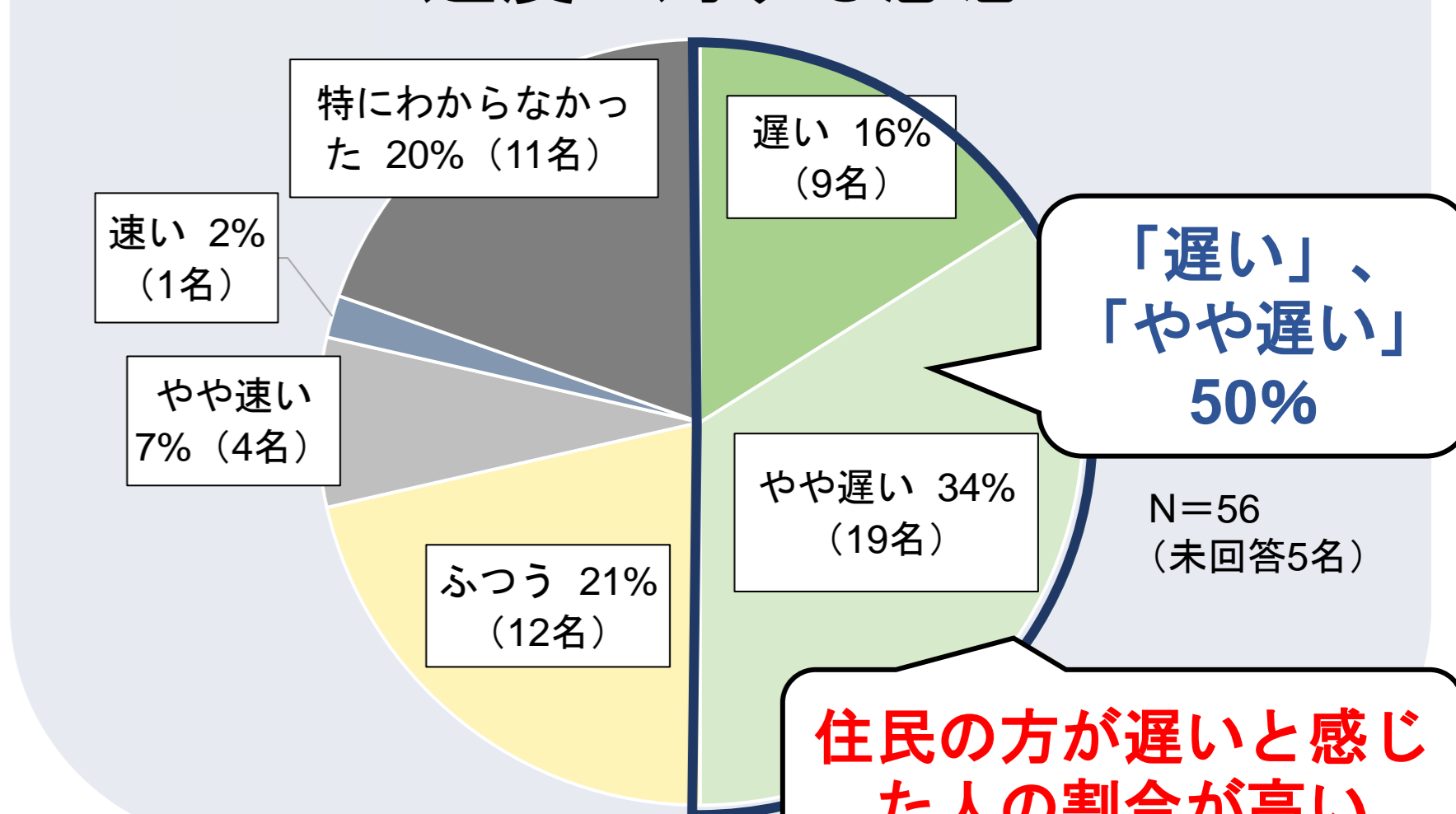
自動運転バスに遭遇した人(N=34)の速度に対する感想



住民：回答者属性(N=99)

性別 男性39% 女性61%

自動運転バスに遭遇した人(N=61)の速度に対する感想



💡 自動運転バスを利用していない住民は、速度に対して不満を抱いている

04. 結論：自動運転技術の受容性は、利用者と非利用者との間でも異なることがわかった

< 提案：利用者の受容性向上へ > ※実験で実施

車内での情報提供

- 専門知識を持つ保安員による説明やモニタの活用
- ①自動/手動、速度、②運転手の手元、③バスの位置情報

綿密な準備(調律走行)

- 交通コンサルとしての知見を調律走行で提供
- 例：信号灯色の読み取りのタイミング、交差点前後の速度設定等



< 提案：道路利用者の受容性向上へ > ※実験では未実施、実験結果を受けた提案

走行空間の確保

- 自動運転バスの走行ルートであること等を看板や路面標示を用いて、道路利用者に対して知らせる



出典：SIP第2期地方部における自動運転サービスに係る調査研究(契約番号：20002053-0) ※パシフィックコンサルタンツを含むコンソーシアムの実績

自動運転の意義の共有

- 自動運転バスを地域に導入することの意義(公共交通の維持等)を共有することが受容性向上に寄与するのではないかと
- ワークショップや講習会を想定

地域課題の自分事化へ

◎その他...規制速度付近で安定的に走行できるよう、技術レベルの向上も並行して実施する必要がある。

実験準備の手順や検証内容をガイドラインに体系化!

